

地域の医療を、ささえる



01. 富山病院



02. 北陸病院



03. 金沢医療センター



04. 医王病院



05. 七尾病院



06. 石川病院



07. 長良医療センター



08. 静岡てんかん・神経医療センター



13. 東尾張病院



17. 三重中央医療センター



日本最大規模の医療ネットワーク

全国で140の病院を運営する国内最大級の病院ネットワークを誇っています。この医療資源と多くの診療実績から得たデータを活用し、診療の質の分析や臨床研究、医療従事者の育成など、国の医療水準の向上に努めています。



09. 天竜病院



10. 静岡医療センター



11. 名古屋医療センター



12. 東名古屋病院



14. 豊橋医療センター



15. 三重病院



16. 鈴鹿病院

関連施設
国立長寿医療研究センター
国立駿河療養所

シンボルマークの解説

国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上を、飛翔する「翼」であらわし、柔軟な意識改革を示す毛筆で描きました。また、Health、Hospitalそして患者本位の懇切丁寧を意味するHospitalityの頭文字である「H」であらわし、健全な土台として描き、「翼」と組み合わせました。

資料のご請求・お問い合わせ先

独立行政法人 国立病院機構 東海北陸グループ 人事担当

〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸4-1-1

tel 052-968-5171 (代表)

url <https://tohkai.hosp.go.jp/>



https://twitter.com/tokaihoku_nho



事務職採用



独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization
東海北陸グループ

医療に不安が 生まれないために

国立病院機構は2004年に国の機関から移行した独立行政法人です。「医療の提供」「臨床研究の推進」「医療従事者の養成」の3つを果たすべき大きな使命としており、国内に6グループ・140病院を擁する我が国最大級の病院組織になります。東海北陸グループはそのうちの一つで、同域内の6県下に、合わせて18カ所の病院と2つの関連施設を展開しています。

当機構は、国の医療政策の直接的な担い手として、がんや循環器病など、国民の健康に大きな影響のある疾病や、結核、神経・筋難病などの、他の設置主体では必ずしも実施されないおそれのある医療分野に対し、患者・家族が安心して治療・療養ができるよう、全国的な病院ネットワークを活用しながら、各地域のセーフティネットとして支えています。

また、重大な疾患や難病に対する取り組みだけでなく、災害発生時や国際的感染症など、国の危機管理に際して求められる医療を提供することも、担うべき役割の一つになります。有事の際には、DMAT（災害派遣医療チーム）や

DPAT（災害派遣精神医療チーム）、初動医療班として、医師や看護師などの職員を派遣することで、多くの人命を救助するとともに、その後の継続的な医療支援にも携わっているのです。

このような、国民と社会に貢献する度合いの大きさこそが当機構と自治体や民間が運営する病院との最も大きな違いといえるでしょう。少子高齢化の進展、地域包括ケアシステムの促進、医療技術の高度化・多様化など、我が国の医療を取りまく環境は大きく変わろうとしています。当機構の病院や関連施設が医療の質を落とさず、患者に寄り添い安定的なサービスを提供するためには、さまざまな仕組みが機能しなければなりません。“医療に不安が生まれないために”、それを支えるのは、未来を見据えて日本の医療を考え、責任感を持って取り組む事務職員一人ひとりであり、その姿勢が国立病院機構の事務職員には求められているのです。





国立病院機構の
成り立ち



かつて陸海軍病院、傷痍軍人・傷病軍人療養所、結核療養所であった施設が、戦後に国立病院や国立療養所となり、さらにそれを引き継ぐ形で、厚生労働省所管の独立行政法人として2004年4月1日にスタートしました。「医療の提供」「臨床研究の推進」「医療従事者の養成」という3つの大きな使命があり、現在では急性期から慢性期までの診療を行う約5万床の病床と、約6万4千人の職員からなる我が国有数の病院ネットワークです。

支えること

国立病院機構を知る
4つのキーワード



01 / 政策医療・地域医療
国民の健康を守るために

がん、急性心筋梗塞、脳卒中、糖尿病、精神疾患の5疾病と、救急医療、災害医療、周産期医療、小児医療、へき地医療の5事業は、国をあげて取り組むべき医療です。さらに結核や重症心身障害、筋ジストロフィーを含む神経・筋難病など、民間ではアプローチが困難とされる分野も加え、各地域の国立病院機構がセーフティネットとして支えています。



02 / 災害医療 (DMAT・DPAT)
被災地へ医療と心のケアを

DMAT(災害派遣医療チーム)は、大規模災害や事故などの際に急性期の医療活動を行うチーム。一方、DPAT(災害派遣精神医療チーム)は被災した精神科病院の支援や被災者に対するメンタルケアを行います。当機構ではチームの派遣に加え、全国各地の医療機関への研修・教育・訓練にも取り組んでいます。また、新型コロナウイルス感染症対応では、初期段階から国の要請等を踏まえて参画するとともに、全国規模の病院ネットワークを活かして、積極的に取り組みました。



03 / 医療技術者養成
未来を担う医療人を育てる

医師に対しては、国立病院機構の地域中核病院の機能を活かした初期臨床研修および専修医制度(後期臨床研修)、セミナー形式実地研修の「良質な医師を育てる研修」等を実施。看護師に関しても養成所の運営や、キャリアパスの各段階に応じた多彩な研修を実施しています。コメディカルの卒後教育や生涯教育にも取り組んでいます。



04 / 安定的な経営
さまざまな改善や工夫を実践

機構全体における各年度の損益計算において、経常収支率100%以上をめざしています。そのために部門別決算や月次決算を行うとともに、各病院の経営状況の比較など、財務状況の分析も進めています。そのほか建築単価の見直しによる固定負債(長期借入金の残高)減少、老朽建物に関する計画的な整備も行い、財政基盤の安定化を図っています。

支えるひと.1

幹部職員 / 病院の運営に参画

これまでの実務経験で得た知見を武器に、病院の幹部職員として病院運営に携わります。また、部下の育成にも積極的に取り組みます。

ONE DAY / 中山さんの with Mr. Nakayama / とある1日

- 8:15 - 出勤
- 8:30 - 決裁書類確認、メール確認
- 9:00 - 事務部長とのミーティング
部下へのフィードバック
- 10:00 - 医師や看護部からの相談に対応
- 11:00 - 各会議資料確認
- 12:00 - 休憩
- 13:00 - 行政からの問い合わせに対応
院長・事務部長に報告
- 14:00 - 対応方針を取りまとめて回答
- 14:30 - 幹部会議出席
- 15:30 - 管理診療会議、
月次決算評価会出席
- 16:30 - 幹部会議議事録整理
- 17:15 - 終業

プロフェッショナルと働く環境が

自分を大きく成長させてくれる

病院は、医師、看護師、薬剤師、技師、事務職員など様々な職種が集まる職場です。実のところ、入社当時の私は「医療に携わりたい」と強い志を抱いていたわけではありません。しかし、高い専門性をもつプロフェッショナルの面々と協力し、仕事を遂行するこの環境が自分自身を大きく成長させてくれ、医療の分野にもっと貢献したいと思うようになりました。

医療業界は、病院、製薬、医療機器など、多くの企業・業種が関わる大きな分野です。日々、世界中で新薬や医療機器の開発、新しい医療技術の研究が進められており、医療に求められることはさらに広がり続けています。国立病院機構の事務職は、みなさんが想像している以上にアクティブな仕事です。自ら動き、アイデアを出し、問題解決に臨める人はぜひ、挑戦してほしいと思っています。

長良医療センター
管理課長
1996年入社

中山宗徳

病院勤務を経て、東海北陸厚生局、
国立病院機構本部、東海北陸グループ
を経験。

これから先も続く医療のため

事務職の力で病院を支える

管理課長の仕事は、医師や看護師、事務職員など院内スタッフへの説明・調整をはじめ、自治体との連携、本部や他グループとの取り組みなど多岐にわたります。幅広い経験・知識が求められる仕事ではありますが、組織内で様々な職種を渡り歩いてきた経験や、数多くの上司・同僚からのアドバイスが自分の血肉となり、自信を持って病院経営に携わることができていると感じています。

数年おきに異動を重ねるジョブローテーションは、国立病院機構の特長です。異動のたびに転職したのかと錯覚するほど多くの業務に携わりましたが、それが結果的に自分の能力を引き上げてくれ、新しい力を養うことができたのだと感じることも少なくありません。

中でも印象に残っているのは、東京都目黒区にある国立病院機構本部での勤務です。ここでの業務は病院とはまったく異なり、「仕組み」を作る行政的な仕事メイン。



厚生労働省をはじめ国の関係者とともに進めるプロジェクトも多く、「医療」という仕事の別の側面を間近で見られたことは、とても勉強になりました。このような道が選べることも、当機構の大きな魅力の一つだと思います。職種により求められる能力は異なりますが、どんな仕事においても「問題発見力」と「倫理的思考」は重要です。先にもお伝えしましたが、当機構の事務職は非常にアクティブで、アイデアや企画力が求められるシーンも少なくありません。成長できる環境を求め、どんな仕事にも楽しく挑戦できる人は、きっと向いていると思います。少子高齢化などの社会的変化もあり、病院はさらなる進歩・発展を続けることが不可欠です。よりよい医療を高いレベルで提供し続けるためには、事務職の力も重要だと自負しています。ここで働く日々は、あなたにとっても有意義な時間となるはずです。一緒に頑張りましょう。

学生のみなさまへ

「事務職」という言葉のイメージにとらわれず、まずは興味を持ってもらえたらうれしいです。常に情報がアップデートされる分野なので好奇心旺盛な人こそ向いていますし、評価制度や選考試験などキャリアアップの基準が明確なので、チャレンジしがいのある環境です。統括者の立場になれば、病院経営の安定化や医療費問題の解決に取り組むなど、大きな使命感も得られます。また、医療を通じた社会貢献も国立病院機構の強みのひとつ。全国規模のネットワークを活用して地域医療に貢献できるほか、例えば災害が起こった際には、DMAT（災害派遣医療チーム）やDPAT（災害派遣精神医療チーム）の一員として、情報収集業務などに携わることも可能です。



管理課 機能的な組織を作る

職員の人事や給与、福利厚生、施設の維持管理等に関する業務を担当します。庶務係や職員係など、病院ごとに係があり、任される仕事の範囲も少しずつ異なります。

医療が注目される今だからこそ

責任感がより大きくなった

仕事は大きく「人事」と「庶務」に分かれています。採用や給与計算、労務管理、外部の医療スタッフや実習生への支払いなどを手配する傍ら、各委員会準備や議事録の作成、制度やルール変更の周知活動、施設整備の手配や突発的なトラブル対応なども私たちの仕事です。また、同部署のメンバーの仕事状況をしっかり把握しておくことも係長に求められる役割だと思っています。新たな取り組みを周知する際には、まずは自分で噛み砕き、わかりやすく伝えることを心がけています。

国立病院機構では、ジョブローテーションを通じてあらゆる業務を経験します。配属先の病院が変わるごとに人脈が広がりますし、幅広い仕事を経験してきたおかげで全体把握力が身につき、それが現在の仕事に繋がっていると感じます。わからないことがあったときに「あの人に聞いてみよう」と思えるネットワークがあるのは心強く、また、向上心を持つ人たちと働けるのも当機構の魅力ではないでしょうか。

キャリアアップに向けて、より知見を広げることが目下の目標です。東海北陸グループは6県で構成されていますが、病院ごとに規模感は異なりますし、地域性の違いなどもあり異動のたびに新しいことを学べます。ゆくゆくは、全ての地域での勤務経験を得たいと考えています。

また、新型コロナウイルス感染症への対応では、臨時の会議や各種調整に追われることも少なくありませんでした。手探りな部分も多く非常に忙しい日々ではありましたが、地域医療を支える気持ちや、この仕事に対する責任感がより強くなったように思います。

入社した当時、事務職という言葉の印象以上に仕事の種類が広く、驚きました。今は、この環境のおかげで成長できたと実感しています。医療現場の縁の下の力持ちとして、これからも尽力していきたいです。



名古屋医療センター
管理課 庶務班 庶務係長
2007年入職

岸本英祐

石川病院に配属後、名古屋医療センター算定・病歴係長、静岡医療センター職員係長を経験。

ONE DAY with Mr. Kishimoto 岸本さんのとある1日

- 8:20 - 出勤
- 8:30 - 始業
メール確認、定期報告
- 9:00 - 支払い関係の事務処理
- 11:00 - オンライン会議
- 12:00 - 休憩
- 13:00 - 問い合わせ対応
- 15:30 - 委員会準備
- 16:30 - 委員会出席
- 17:15 - 翌日のスケジュール確認、片付け、終業



学生のみなさまへ

医師や看護師をはじめ医療従事者とともに地域医療の発展に貢献できる、やりがいがある職場だと思いますので、ぜひ一緒に働きましょう。研修制度や指導体制が充実していますので、異動の際も安心です。

ONE DAY with Ms. Shimizu 志水さんのとある1日

- 8:15 - 出勤
- 8:30 - 始業
メールチェック、伝票処理
- 9:00 - 発注業務
職員からの依頼、問い合わせ対応
決裁書類作成
- 11:30 - 検収、納品
- 12:00 - 休憩
- 13:00 - 入札説明書、契約書等の作成
- 15:00 - 職員からの依頼、問い合わせ対応
業者への問い合わせ
- 16:00 - 検収、納品
- 17:00 - メールチェック
- 17:15 - 終業

学生のみなさまへ

国立病院機構の事務職は、いろんな立場の方と関わり合う仕事です。個人的に大切だと思っているのは「相手の意見に耳を傾ける姿勢」。気軽に相談してもらえる関係性が、気持ちよく働ける環境につながると思います。



東名古屋病院
企画課 業務班 契約係
2017年入職

志水亜衣

東名古屋病院 管理課庶務班給与係、
企画課業務班入院係を経験。

企画課 病院の戦略を導き出す

病院の運営や経営分析、物品の管理といった業務のほか、患者の受付、診療費の算定など医療に関する業務も行います。

仕事に向き合うことが

自分の将来を考えるきっかけに

診療材料、試薬、一般消耗品など、病院内で使用する物品の管理全般を担当しています。各部署からの依頼にすぐ対応できるように、部署ごとに必要な物品を把握し、普段から密なコミュニケーションを心がけています。また、業者との折衝も私たちの仕事です。ただ闇雲に「価格を下げてください」と依頼するのではなく、事前に資料を集めて価格交渉に挑み、互いに納得できるよう努めています。

日々の仕事を通じて、調達した物品が実際に患者さんの診療や治療に役立っていると実感し、うれしく思っています。また、病院経営の面ではコストを下げることも重要です。もともと、「医療を支える仕事がしたい」との動機があり入社したので、主体的に動くほどそうした部分に寄与できる今の仕事にはとてもやりがいを感じています。



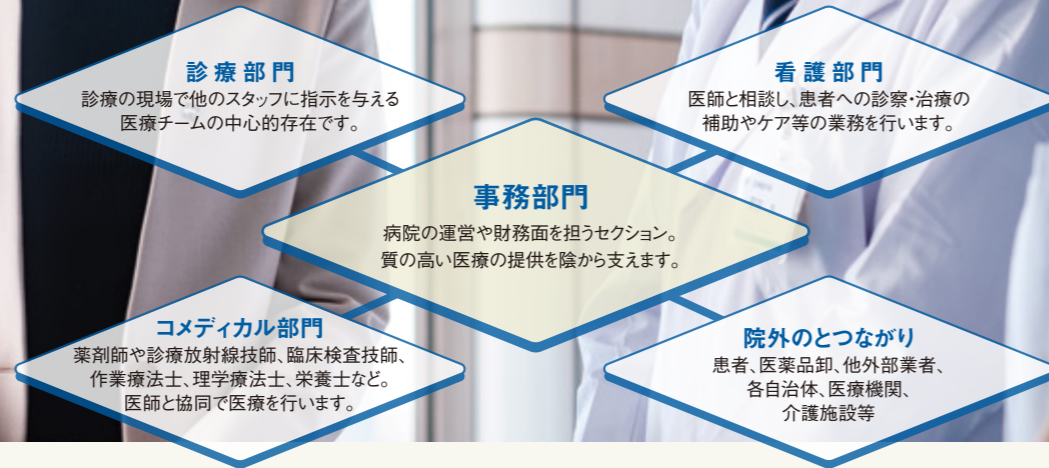
入社当時はあまり上昇志向を抱いていなかったのですが、ジョブローテーションを通じて様々な仕事を経験する中で、キャリアアップを目指したいとの気持ちが芽生えてきました。現状、採用全体の男女比は同じ程度であるものの、それに対して女性の役職者は多くないため、今のうちからキャリアアップを見据えて動いていけたら...と考え始めているところです。2021年度は係長試験に合格し、今後のキャリアについて具体的に考えるきっかけにもなりました。いくつかの部署を経験したとはいえまだまだ自分の知識は限定的だと感じているので、今後もジョブローテーションを重ねてさらに多くの仕事を経験できればと思っています。

仕事への向き合い方をはじめ自分がこうして成長できたのは、上司や先輩のおかげだと感謝しています。未経験部署への異動は不安もありますが、異動のたびにしっかり教育が受けられる体制が整っているので、それぞれの仕事のおもしろさを知ることができるはずです。

事務職員はネットワークの要

医療を支える
職種の架け橋に。

東海北陸グループ内(富山・石川・岐阜・静岡・愛知・三重)には18か所の国立病院機構の病院があり、職員の総数は約7千人。1日平均約9千人の入院・外来患者の診療を始め、研究・教育等を行っています。



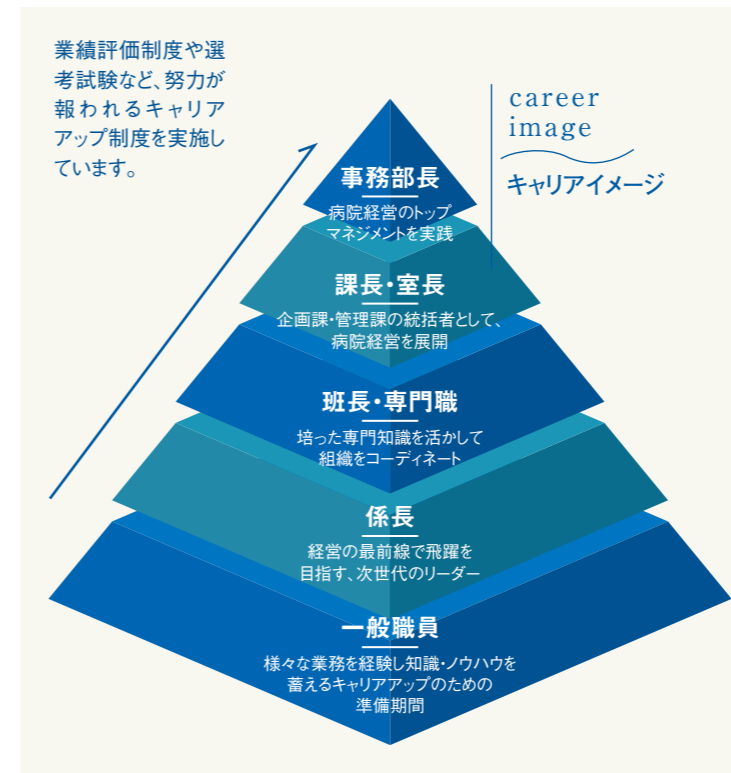
事務部門

組織図・業務内容

企画課			管理課	
経営企画室	業務班		庶務班	職員班
	会計部門	医事部門		
経営企画係 業績評価係	経理係 財務管理係 契約係	算定・病歴係 入院係 外来係	庶務係 給与係	職員係 厚生係
病院の舵取り役	経営の安定と効率化を図る	日々の収益業務の要	職員の活躍を支える	安心して働ける職場へ
健全かつ自立した運営を行うため、経営に関するデータをもとに、今後の病院運営の方針を検討します。その判断材料となる資料の作成や、企画立案も大切な業務です。	医薬品や医療材料、医療機器、業務委託や改修工事といった、物品購入や契約に関する業務を担当します。さらに財務諸表の作成、債権・債務の管理業務も行います。	診療報酬の管理を中心に担当。診療費の計算・請求に加え、診療報酬の分析や統計資料の作成、地域の医療機関との連携など幅広く活躍します。	人事や給与に関する業務を始め、人件費の管理や人材を生かすための配置計画の策定も行います。部門間を取り持つ調整役・連絡役としての側面も持っています。	健康診断や年金請求の手続き、労災申請の窓口、研修管理、勤務時間の調整など、職員とその家族の生活を側面からサポート。働きやすい職場環境づくりを行います。

キャリアパス

めざすゴールに向けて



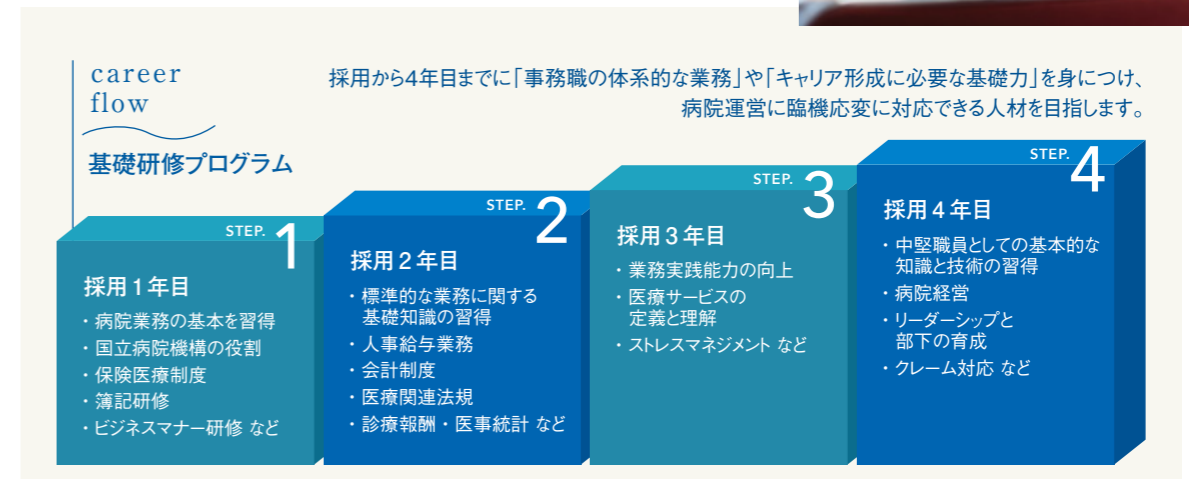
多角的な視点での
評価を実践

一般職員として採用された後は、配属先の病院で様々な経験を積みます。その後、受験資格を得た者は、係長に昇任するための試験を受けることができ、合格すると係長任用候補者となります。係長昇任後は、病院や担当業務を異動しながら、より多くの経験を積むことで、専門職・班長・室長・課長ポストへ昇任するための途が開け、あなたの努力次第では、事務部門のトップである事務部長に昇任することもできます。また、希望によっては、国立病院機構本部(東京都)への異動もありますので、幅広い分野で活躍することが可能です。



研修

臨機応変な対応力を養成



着実に
ステップアップ
できる環境

国立病院機構では、キャリア形成の支援と業務実践力の向上を目的とする研修体制が充実しています。例えば、採用1年目から4年目までの事務職員に対しては、基礎研修プログラムを設けており、1年目は、病院業務の基本、2年目は、標準的な業務に関する基礎知識、3年目は、業務実践能力の向上、4年目は、中堅職員としての基本的な知識と技術の習得を目的とした研修を実施することで、キャリア形成に必要な基礎知識を学びます。その他にも、人事・給与研修、会計業務研修、医事業務研修といった、各担当者のスキルアップを目的とした専門的な研修であったり、財務省が実施する外部研修で学ぶ機会も設けています。